

様式第1号

会 議 録

会議の名称		平成30年度第2回つくば市未来構想等審議会	
開催日時		平成30年10月23日 開会14:00 閉会16:00	
開催場所		つくば市役所 5階庁議室	
事務局(担当課)		政策イノベーション部企画経営課	
出席者	委員	神谷大蔵、大澤義明、高谷榮司、東郷治久、桜井姚、小玉喜三郎、宇津野茂樹、山海嘉之、生田目美紀、大島愼子、森博徳、廣瀬久美子、中井聖、中嶋信美、北本政行、永井悦子、西美佳、林亮、山口圭一、横田直巳、門脇厚司、飯野哲雄、毛塚幹人 計 23名	
	その他		
	事務局	神部政策イノベーション部部長、片野政策イノベーション部次長、大越企画経営課課長、課員5名	
公開・非公開の別		<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数 1名
非公開の場合はその理由			
議題		(1) 職員ワーキングチーム等における未来像抽出のプロセスについて (2) 審議会委員と職員ワーキングチームとの意見交換会の実施について (3) 市民、高校生・大学生意識調査の実施概要及び設問内容について (4) 人口の将来推計の実施方針について (5) つくば市が今後力を入れるべき分野《意見交換(前回欠席者)》	
会議次第	【第2回つくば市未来構想等審議会】		
	1	開会	
	2	報告	
	3	議事	
		(1) 職員ワーキングチーム等における未来像抽出のプロセスについて (2) 審議会委員と職員ワーキングチームとの意見交換会の実施について (3) 市民、高校生・大学生意識調査の実施概要及び設問内容について (4) 人口の将来推計の実施方針について (5) つくば市が今後力を入れるべき分野《意見交換(前回欠席者)》	
4	閉会		

審議内容

1 開式

政策イノベーション部次長：只今より第2回つくば市未来構想等審議会を開会いたします。本日は、ただいまの時点で23名の委員の方に御参加いただいております、会議開催要件の過半数を満たしていることを御報告いたします。

2 報告

- (1) 第1回審議会の開催報告
- (2) 市民ワークショップの開催概要
- (3) 土地利用構想専門部会の開催概要
- (4) 2030年の日本や世界の未来予測

会長：皆さんあらためましてこんにちは。今回は8月30日に開催しました。その際に活発な議論が展開でき本当にありがとうございます。本日2回目となりますが、引き続き忌憚のない自由な素直な視点で御意見を頂戴したいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。それでは議題に入ります。まず報告事項が4件ございますが、一括で事務局から御説明をお願いします。

事務局：【報告(1)～(4)】(資料1、資料2、資料3、資料4を用いて報告事項の概要を説明。)

会長：ありがとうございました。4つの報告事項がありました。(2)がワークショップ、(3)が土地利用構想ということで、(4)はある意味今回の審議会の基盤となる2030年の未来像とするものでした。(1)に関しては説明がありましたが、たくさんの意見を頂きまして、例えば職員のワーキングチームと審議会委員との情報交換というのが提案されて実現しています。あるいは大学生にもアンケートをするということで、御議論いただいた方向で進めています。アンケートの設定に関しても見やすさ等の意見を頂きました。全体的に進め方としては総花的ではなく選択と集中ということで、この未来構想を作っていくということだと思います。イノベーションというのは当然、選択と集中がないとできませんので、そういうことを確認できたと思っています。これら4つの報告事項について、何なりと御質問御意見を頂ければと思います。

委員：労働人口が減ってくるので外国からたくさん労働者が入ってくると思いますが、大体どれくらいになると推計されているか、データを教えて欲しいです。学校の方でも1クラス3人くらいは外国の方がいらっしゃるのですが、例えばこれが3割くらいになると言葉の問題が発生するので、これも考えておかない

といけないのではないかと思います。

会長：はい、ありがとうございます。事務局からお願いします。

事務局：労働者人口の推移なのですが、現在、過去からこれまでというものは数値として把握しているのですが、人口推計等についてはこの後の議題でも御説明するところでもあり、これから推計を行う予定で考えています。現在 2060 年までの推計を行っているものを更新したいと考えております。その際に生産年齢人口についても推計を行い、あらためて御報告させて頂ければと考えています。

会長：はい、よろしいでしょうか。たぶん審議事項の 4 あたりで議論が展開されるかと思います。他はどうでしょうか。

委員：今の御質問に対する回答として、これは難しいのでしょうか、全国的な問題として、外国人の在住がどのくらいになるのかという予測はあるのかということと、特に小・中・高の方々の日本語教育はどうするのかという。私も追加の意見で書いておきましたが、これは課題だと思いますので御回答いただきたいと思います。

事務局：おっしゃるように今後のつくば市における課題だと思いますので、外国人の人口推移やそれに伴う社会的変化、そういったものも検討したいと思います。次回以降の審議会で御報告させて頂ければと思います。

会長：ありがとうございます。他どうでしょうか。

委員：先ほど市民ワークショップのことについて御説明があったのですが、こちらは今のところ何名くらいの方が申し込まれているのでしょうか。

会長：事務局お願いします。

事務局：はい、30 名で募集を行いまして、実際は 37 名の方に応募をいただいておりますが、行けなくなってしまったという御連絡も受けておりますので、実際は 30 名強の人数で開催することになる予定です。

委員：ちなみに年齢層とかを申込時には伺ってはいますか。

事務局：年齢層については 10 代から 80 代まで幅広い、また男女様々な方に御応募いただいています。

委員：ありがとうございました。

会長：その他、お願いします。

委員：未来像の中で既成のデータ等から拾ってくださったということで 21 ペー

ジ 22 ページにあるのですが、この中に文化・芸術の項がどこに入るか分からないのですが、今のところ入っていないと思いますし、今のつくば市のウィークポイントだと思いますので、ぜひ検討いただきたいと思います。

会長：事務局お願いします。

事務局：おっしゃるよう分野として文化・芸術というものがございませんので、こちらについても調査を加え、あらためて御報告させていただきます。

会長：ありがとうございます。確かに文化・芸術というのはイメージ的にあった方がいいと私も思います。他どうでしょうか。

委員：コメントだけなのですが、先ほど外国人の話もありましたが、21・22 ページにありますように色々な未来予測があると思うのですが、これによって何が起こるのかということまで考えを進めないと、これだけを見たのでは不十分かと。例えばサービスロボット、介護ロボットとありますが、これによって介護がどうなるのか、それによって介護する方がどれだけどうなるのか、そこまで深く考えないとこれだけを並べても恐らく意味がないと思いますので、考えを深化して頂ければと思います。答えるのは難しいと思いますのでコメントだけです。

会長：ありがとうございます。御指摘の通りだと思います。ただどの程度精度良くというのはなかなか難しいので、ある種の仮定、いくつかのシナリオを用意するといった対応の仕方があると思います。他いかがでしょうか。よろしければ一旦議事を進めさせていただければと思っています。前回もそうですが、委員の皆さんひとこと御発言を頂戴したいと思っています。それでは議事の方に入りたいと思います。

3 議事

【議事 (1) 職員ワーキングチーム等における未来像抽出のプロセスについて】

会長：「(1)職員ワーキングチーム等における未来像抽出のプロセスについて」事務局から御説明をお願いします。

事務局：(資料5を用いて今後の未来像抽出のプロセスについて説明。)

会長：ありがとうございます。職員ワーキングチームで現在20年30年先を見据えた課題を抽出するために分析を使ったということです。今月で終わりですので、現在進めている内容かと思いますが、何か御質問御意見ございますでしょうか。

委員：質問ということではないのですが、意見としてお願いということなのですが。今御説明をお聞きしまして、ベースになってくるのが職員ワーキングチームの素案と分析ということで、ベースになってくる意見をアンケートとか市民の御意見とかを伺って発展していくような考えでいるということかと思いません。職員ワーキングチームということでこのあいだ写真等を拝見いたしましたらかなり若い、中堅の方の職員がワーキングチームに参加されているということで、未来構想にはふさわしいと思いますが、それをフォローするような上司の意見といったものを職員ワーキングチームと合わせてそちらの意見も吸い上げてSWOT分析に入れて頂ければと思うのですが、その辺はどうでしょうか。

会長：事務局お願いします。

事務局：今回の策定体制としまして、職員ワーキングチームがございまして、その上に部長級の庁内策定委員会というものがございまして、審議会に出てくる前に庁内策定組織で確認を頂くという流れになっています。庁内策定組織の前にも庁内全庁的に策定段階というものを報告しておりますし、特に重要な点については個別に照会等を行い、庁内の御意見等も充分集めた上、審議会でご報告できるようにと考えておりますので、おっしゃるとおり、若手が突っ走るような形にはならないように、その辺は充分考慮してやっていきたいと考えています。

会長：きちんと皆さん情報共有してリアリティのあるものにしていくというものだと思います。他にいかがでしょうか。

委員：27ページの表の所ですが、ステップ1の成果として「中長期課題の整理をステップ2で活用」とありますが、既に成果が出ていると思うのですが、こちらの会で確認することができるのかどうかお伺いします。

会長：事務局お願いします。

事務局：こちらにつきまして、現在出てきたものの課題の整理と課題の一覧の類型化を行っておりますので、次回第3回の審議会等においてどういったものが出てきたか、どう類型化されているかというものを御報告しまして、こちらについても御意見をいただければと考えています。

会長：今の御指摘はとても大切だと思いますのでぜひ3回目お願いしたいと思います。他はどうでしょうか。委員おねがいします。

委員：このワーキンググループの各ステップは基本的によろしいかと思うのですが、前回の審議会で、今回は未来構想とは違ってバックキャスティングでやるというお話がありまして、私の理解が正しいかわかりませんが、バックキャスティングということは方向性だけではなくある程度到達目標がありそれに向

かう工程みたいなものも含めて考えるものだと思います。もしそうだとして、前の場合には基本構想がありそれは方向性を決めることだけど、その時に戦略プランがありそこで基本戦略というのがその中にある程度到達目標というものを掲げて、更に個別施策という形になっていました。今回の未来構想の場合はその様な階層的な構造がどうなっているのか、そもそもこの未来構想の中にバックキャストというものを取り入れたことで、例えばこの職員ワーキンググループの中でも前とは違うような所までの議論があるのかどうか、その辺のイメージを分かりやすく御説明をお願いします。

会長：事務局をお願いします。

事務局：前回バックキャストを活用と御説明して、今回お話ししているフォアキャストが中心じゃないかという御指摘かと思いますが、両方使っていきたいと考えております。もちろんバックキャスト、現在の課題に対して高い目標を掲げて、それに対してどういう風にやっていくかという逆算で考えていくというやり方もやるのですが、まずは庁内で、つくば市全域の市民が抱えている課題、そういったものをまずは広く把握した上でそこからどのように優先的に対応していくか。その際の課題設定としてフォアキャストだけではなくバックキャストという形で両方いい所を使って行ければと考えています。その際に目標設定としまして、今回未来構想と戦略プランという、今の構想では具体的に戦略プランの方で指標等が入っておりますが、今回の未来構想と戦略プラン2つに分けることにはなると考えているのですが、未来像の中にも何かしらの目標というかそうしたものを入れられるように設定したいと考えております。

委員：それはこの職員ワーキンググループの中で議論するのですかということ質問しています。

事務局：原案はワーキングチームの中で作りまして、それをこの審議会でお見せして御意見頂ければと考えております。

会長：よろしいですか。その他、お願いします。

委員：私は SWOT 分析についてあまり詳しくないのですが、勉強したところでは、基本的に目標をまず設定して、その目標に向けて強みをどう活かすか、あるいは弱みをどう克服するかという、まさに戦略を立てるものだと理解しております。SWOT 分析から未来像を作るというのはむしろ本来なら逆なのかなと思っています。未来像がありそこに向けて何をしていくかどう強みを活かしていくかという戦略を考えるのが SWOT 分析かなと、誤解があるかもしれませんがその様に理解しております。ただ、先ほども御説明がありましたがフォアキャストとバックキャストを並行的にやると。そういうことである

とすれば、これも説明にございましたが、戦略の中でどこに重点を置くかというのが極めて重要だろうと。どこに重点を置くべきかと考えることがすなわち未来像を考えることなのかもしれないという風に思うのです。SWOT 分析もいいのですが、これをやるだけだと戦略が出てくるだけで、その中でどれに重きを置くかということが実は非常に重要なプロセスなのかなと感じております。その際に考えるべきことの一つとしてコメントさせていただきます。例えば 31 ページの別の町の例ですが、成長 戦略と克服戦略 1・2 と回避戦略とございます。それぞれ 4 つの箱ごとに閉じた感じで書かれているのですが、実は相互に関連があり、例えば成長戦略の上から 2 つ目に「道の駅の整備×豊かな営農環境＝農業振興」とありますが、それによって克服戦略の上から 3 番目の「農業担い手不足」という弱みがある程度カバーできるものだと思っています。お互い連関があると思いますので、それも留意しながらどこに重点を置くべきかというのを御検討頂いて未来像につなげて頂きたいとそんな風に思います。

会長：事務局どうですか。

事務局：現在行っている SWOT 分析につきましてはつくば市全体を対象として広くやっています。つくば市が持続可能なまちづくりを目指していく上で、どのような強み、弱みがあるか、機会、脅威があるかという形で行っております。ステップ 1 で抽出した中長期的な課題の中でどれに重点的に取り組んでいくか方向性を出すもの、参考として考えておまして、また、御指摘頂いたようにさらに絞った上でどういう具体的な戦略を目指していくかという段階になった際に、再度絞られたテーマの中でさらに SWOT 分析をやるという方法もあると考えていますので、御指摘を受けて今現在やっているものと、今後再度具体的な未来像を作っていく上で、御指摘頂いた点について考慮して進めていきたいと考えています。

会長：ありがとうございます。委員さんがおっしゃったことはよく分かりますので、多分そういう方向でいこうと思いますので、一つの分析ツールとして SWOT 分析を使ってここから色々な議論を展開するので、留意したいと思います。それでは議事を進めさせて頂ければと思いますが、よろしいですか。では、「(2) 審議会委員と職員ワーキングチームとの意見交換会の実施」について事務局から御説明をお願いします。

【議事 (2) 審議会委員と職員ワーキングチームとの意見交換会の実施について】

事務局：(資料 6 を用いて審議会委員と職員ワーキングチームとの意見交換会の実施概要を説明。)

会長：審議会委員と職員ワーキングチームとの意見交換会の実施について、前回の議論で成立した話題だと思っています。素晴らしい事だと思いますが。御意見あるいはコメント等頂ければと思います。

特にないようですので、続いて議事「(3) 市民、高校生・大学生意識調査の実施概要及び設問内容」について御説明をお願いします。

【議事 (3) 市民、高校生・大学生意識調査の実施概要及び設問内容について】

事務局：(資料7-1、資料7-2、資料7-3、資料7-4を用いて市民、高校生・大学生意識調査の実施概要及び設問内容を説明。)

会長：ありがとうございました。市民・高校生・大学生意識調査のアンケート内容です。御質問をお願いします。

委員：3つあり、2つは意見で1つは質問です。まず2つほど意見を述べさせて頂きます。39ページの実施概要についてですが、全学年を対象にしているのですが、学年が上がるにつれ将来に対する意識が大きく変わって来ると思うので、学年による結果の違いも意識してみてもどうかと思いました。もう1つなのですが、その下の高校のところで、Web等で回答とありますが、確かに昨今の時代を考えるとWeb等も方法の一つだと思うのですが、実は筑波大学の話なのですが、平成29年に学生生活実態調査というものがあり大学の方で全学年の学生を対象にWebで回答するものなのですが、実は回答率が22%くらいと低いものになっていました。質問の内容と質問数も違うと思うのですが、Webでやる際に周知の方法については大学側と良く協議した方が回答率は上がると思いますし、何もしないと回答があまり得られない可能性があると思うので気を付けて頂きたいなと思いました。最後に質問として、44ページについて、人口減少に関する事で、問2-5で少子化対策に繋がる所があるのですが、確かに人口減少から少子化対策に繋がる考えは間違えではないと思うのですが、自然増減だけではなく社会的な増減に関する政策などを入れる考えはありますでしょうか。

会長：事務局をお願いします。

事務局：確かに学年による結果の違いというのは出るかと考えております。今回3つの大学を対象としてお願いする際に学年別に依頼するという方法が極めて難しいと考えておりますので、結果として全ての学年にお願いするという方法になるかと考えております。結果については違いが出るかと思っておりますので、分析の際に学年の差を考慮した上で分析できるか検討したいと思っております。

Web 等での周知方法で、大学の学生生活部の方とは既に協議をさせて頂いており、大学の講義の案内等が載る Web ページ等に載せて頂くことに加え、大学の学生食堂に広告を置かせて頂いてそういったものをもとに見て頂いて回答して頂くという方法や、大学の宿舎に入っている方においては、宿舎の方用のメーリングリスト等を使わせて頂けると聞いておりますのでそういった方法等を用いて何とか回答率を上げたいと考えております。我々も全学校を対象とした調査で2～3割と伺っておりますので何とかそれを目指して筑波大学の方に2～3割答えて頂けるようにやっていきたいと考えております。

44 ページの間 2-5 の人口減少の対策としてこちらの自然増減に特化した形で記載しておりまして、社会増減に関する施策は無いのかという御指摘なのですが、今現在つくば市においては社会増減というのは幸いというか、社会増はかなり多い状況になっております。その理由としましては、TX 沿線開発等において住宅地開発が進んでいるといった理由があり、今後市として目指していく方向性として、周辺自治体を含めて人口が減っていく中で小さくなるパイを奪い合う、外から取ってくれということに重きをおくというよりは自然増を増やしていくということに重きをおいているというのがございます。まち・ひと・しごと総合戦略というものに作成しておりそちらに記載している内容になりますが、そうした既に策定している総合戦略といったものも考慮した上で今回自然増に繋がる施策というものに特化した形で記載させて頂いております。

会長：その他、お願いします。

委員：51～52 ページのアンケート調査で、これはもう内容は決定しているものだと思うのですが、私共の大学は非常に小規模で頻繁に Web でアンケートをやっていますので、回答率はそれなりにでると思うのですが。私が授業をやっていると思うのは、大学生であっても業種と職種の意味がわかっておりません。例えば将来何になりたいかと「プログラマー」と回答できるけど、プログラマーは何の業界か。これは問 1-3 と問 1-4 が答えにくいかもしれないという印象を受けました。

事務局：このアンケートにつきましては固まったものではなく本日の御意見や、庁内等からも御意見をいただいておりますので、そうした内容を元に修正して実施したいと考えております。問 1-3 と問 1-4 については御指摘の通り難しいといえますか、確かに自分の目指す職業がどれに当てはまるのか一回考えないといけないようになっておりますので、答えやすいような形に再度検討を行いたいと思います。

会長：その他、お願いします。

委員：43 ページ、例えば「3つまで選ぶ」とされてしまうと、問 2、問 3 でそ

れぞれ関係しているものと因果関係があるものがいろいろあって、どれも重要だと思うので選ぶのが難しいかと。恐らく3つというのはその中でも特にというお考えだと思うのですが、これはどれを軸に自分が見るかによってだいぶ変わってきたりするのでかなり選びにくいと思いました。それから先ほど委員から44ページの間 2-5 の所で自然増と社会増のお話があり、今は自然増の話先ほどお答えになってらっしゃったので、もしそうだとしたらそう書いた方がわかりやすく良いかと思えます。

会長：事務局お願いします。

事務局：皆様の御指摘を受けまして、今3つまでとしているのですが、これも因果関係があり3つ以上になってしまう可能性があるという御指摘かと思えますので、全体的に1つか3つかという質問が多いのですがこれを少し見直し、「あてはまるものを全て」など再構成したいと思います。問2-5についてはこれも御指摘を受け、表記を自然増という点において、質問の仕方というものをもう少し工夫したいと思います。

委員：少し追加を。恐らく人口増については、ある程度の人口規模に成長していくのも目標の1つかと思えますが、日本中の様々な所からつくばに人が集まって、特に、若手の人が集まって来るような取り組みというのは結果的に自然増に繋がっていく話だと思うのです。それは単に子育てだけの問題だけではなく、若い人たちが働くことができる、あるいは、このまちで働きたいという人たちが集まってくるような、そういう話を本当は一緒に考える必要があるのかもしれない。そういう意味でもう1回だけお話しさせていただきますと、本当はこのまちの未来を考えた時に、単に子供が何人増えていくという話だけではなく、結局このまちが活気のあるまちになっていけるようなことが大切なのだと思います。以上でございます。

会長：はい、ありがとうございます。

委員：問2-4と問2-5に関してですが、前提として、我々が今考えているのは2030年の時点での望ましいやり方を考えているわけですが、平成27年にこういうのを作っているのですね。問2-4の設問に記載されておりますが、2030年の段階ではつくば市はまだ人口増ですよ。その時点で2036年にはピークに達し、その後は減るということになっているわけです。この質問の間2-4と問2-5を見ると2030年の段階でいずれは減るのだということをお前提にしているのでそれでいいのかどうか。まだ人口が増えているということをお前提に考えるのか、それともその2030年の時点で36年には減るのだと。減らないためにどうしたらいいかということをお折り返し済みで考えるのはどうか。これはコンセンサスを得る必要があると思質問させて頂きました。

会長：事務局お願いします。

事務局：委員がおっしゃっていただいたつくば市人口ビジョンによる推計を問2-4の前段で説明として入れさせて頂いており、これに対して36年のピークの後このまま減っていった方がいいのかということに関しては維持していくのか増やしていくのか減っていくのを容認するのか、コンセンサスは現時点では取れていないという状況です。市民の方が具体的にどうお考えかということをお問2-4で伺えればと考えてその様な設問を設けさせて頂いたところでございます。このコンセンサスをどうやって得るのかということについては、難しい所はあるかと思いますが、これについては審議会等でもぜひ御意見頂ければと思います。

委員：私がコンセンサスと言ったのは、2030年の段階でまだ人口増の中でも既に36年から減るという前提に考えていいのかどうか、そのところでコンセンサスを得ていく必要があるのではないかと質問をしました。明らかに問2-4問2-5の設問だと減るということを前提にあらかじめ折り込み済みでどうしたらいいのかというのを聞いているというのを読みとったのでそれでいいのかという質問です。あと関連していえば、割と丁寧に調査票の中身を拝見させて頂きましたが、ワーキングでこういう風に修正した方がいいのではないかとか、新たにこういうのを入れたらいいのではないかとするのはいくつかあるのですが、先ほど事務局の話もありましたが、いずれ修正した上で最終的なものを作るということですので、時間の関係で私はメモをしたものを事務局にあとで届けて頂きますのでそれは御検討頂ければと思っています。

会長：メモの件は承知しました。最後私の方で確認します。あとこちらのアンケートは2030年をターゲットとしていますが、私個人的にはもう2036年に減るという前提で良いのかなと思っています。やはり長期的な話ですので、そういう方向だということをおもいます。

委員：それを折り込み済みで考えるということですね。わかりました。

会長：その他、お願いします。

委員：高校生向けのアンケートの体裁なのですが、一年生も含めるのですよね。二年生以上ですか。

事務局：二年生のみです。

委員：高校生は学力にすごく大きな差があるので、この文章ですと漢字が読めない子がいると思うのですよ。冗談ではなくて、高校一年生で自分の住所が書けない子が普通にいますので、小学生の先生に一度見てもらった方がいいのではないかと思います。小学校6年生が読んで分かるくらいの所で書かないと、まず

「創出」という漢字が多分読めないと思います。

会長：事務局お願いします。

事務局：文面については簡単な文章に直したいというのと、ルビをふっていませんのでルビについても入れて高校生全ての方にお答え頂けるよう、内容や文面、設問の設定の仕方など再度見直しを行いたいと思います。

会長：その他、お願いします。

委員：3点ほどお願いしたいと思います。まず1点目は今もお話がありましたが、このアンケートの文言についてです。高校生では理解しにくい内容もあるのかと。漢字だけではなく、例えば就職希望にしても、企業規模や給与水準、福利厚生とか監督をしている先生に質問攻めになるようなアンケートではやはり大変かと感じます。そういったところも平易な言葉を使っていただくということがあるといいと感じております。

2点目ですが、特別支援学校にも実施をとということで入っておりますが、前回アンケートを取った時は特別支援学校は入っていなかったのですよね。今回実施するにあたってこの内容そのままは特別支援学校の生徒さんにとっては厳しいのではないかと感じます。保護者が支援というような御意見があったように拝見しましたが、保護者であっても非常に答えづらい部分もあるのかと感じます。結婚のことであるとか職業のことであるとか非常にデリケートなものも含まれていますので、特別支援学校に対してアンケートするのであればもう少し別の角度、障害のある人たちにとって住みやすいまちとかそういう観点の内容、将来を含めて、そういう聞き方の内容のアンケートであれば受け入れて頂けると思うのですが、このままでは言い方が悪いですが、酷ではないかと感じます。もう少し寄り添った内容のアンケートにさせていただいて実施するというをお願いしたいと思います。

最後3点目ですが、私は高校の校長をしています。高校はたまたま受験してきた学校がつくば市だったという生徒も多いです。私が勤務している学校でもつくば市出身の子供は30%しかございません。他の高校もつくば市在住の子の割合はそう多くないというのが現状です。そのため、将来的に中学3年生、愛着という点でずっと住み続けてきた、あるいはこれからも住んでいくという観点から考えると、今回は高校・大学が対象ですが、中学3年生くらいであればある程度職業のことも考える観点から、今度こういうアンケートがあるならば、実際に住んでいる子どもたちの将来、また、外に出ても戻ってくるかもしれないという子どもたちのことを考え、中学3年生くらいの子たちの意見なども将来的に聞く必要もあってもいいのではないかと感じております。

会長：はい、ありがとうございます。それでは事務局お願いします。

事務局：1点目と2点目で頂いた質問は、内容が答えづらい、少し難しいという御指摘については他の委員の方からも頂いておりますので、内容については全面的に見直しを行いたいと考えております。

3点目で頂いた、中学3年生にもというお話なのですが、今回受験の時期、11月に実施するというのもございまして、なるべく受験の負担等にならないようにと考え、高校生についても高校2年生という風に考えておりますので、中学3年生というのは厳しいのかなということで今回外させて頂いているというところです。その場合でいうと中学2年生という形にはなると思いますが、今後アンケート調査をする上で参考にさせて頂ければと考えております。以上です。

会長：その他、お願いします。

委員：今の中学生に対する意見は、とても素晴らしいと思います。例えば、私の場合ですと、小学校の時に、ある本を読んで将来こういう生き方をしてみたいなと思うようになりました。今こうしてつくばで歩めているのは、当時のそのようなちょっとしたきっかけがあったからと思うのです。今回のアンケートに回答していくことにより、自分の未来について考える機会になり、そうかそういうことだなと自分で整理できる良い機会になるかもしれません。小学校・中学校の時代は、これから大きくなっていくのにどうしようかなと思う時期でもありますから、このような取り組みは良い機会になるでしょう。

先ほど委員の方から高校生の中でも字が読みづらい人もいるという話がありましたが、中学生を対象にわかりやすくきちんとした説明文章ができていれば、そのような問題にも対応できることになると思います。わかりやすくしっかりとした文章を準備することは大人の方にとっては大変かもしれませんが。以前、私がある新聞社の小学生新聞に連載した時の苦悩を考えますと大変だと思いますが、そういう平易な文章できちんと説明していくということができていくので、良い取り組みになるのではないかと思います。

会長：それでは事務局お願いします。

事務局：中学生に答えられる内容だと高校生も答えられるということもあると思いますし、内容についても先ほど委員からもありましたが、住んでいる方に聞いてほしいということもあり、今回高校にはつくば市以外から来ている方もたくさんいるということも重々承知の上で、住んでいる方または住んでいない方にもお聞きするという内容になってはいますが、住んでいない方の意見についても参考にできればと考えております。設問については色々御意見にたいただい

るので見直しを行い平易な文章、答えやすい内容に改めたいと思います。

会長：政策イノベーション部長お願いします。

政策イノベーション部長：ただ今中学生にもアンケートをとということでした。非常に貴重な御意見を頂いたと認識しております。中学生にアンケートを行う場合、郵送という形ですと、具体的な話になってしまいますが、予算等の関係上難しくなってしまうので恐らく実施するとなると学校等に協力していただくような形になってしまうと思います。その場合、関係者との調整等がありますので、もう少し具体的に我々の方でも整理した上で、実施の可能性等については検討していきたいと思います。

会長：中学生を対象としたアンケートは、定住者を対象とする上で、あるいは多感な時期ということで話題に上がりましたが、今回実施されるかどうかわかりませんが議事録として残りますので非常によかったと思います。アンケートは回答者の目線に立つというのは大事な意見ですので、平易な文章を。逆に平易な文章というのは難しいかと思いますが、極力お願いして最終的に私もチェックしますので御理解頂ければと思います。

委員：アンケートを進めて頂くことに対し、異論はないのですが、今回は市民ということで住民基本台帳に登録された方ということになっておりますが、先ほどの人口の問題もありましたように、社会的な増減の他に誘導人口というものもあり、そういう人たちも何かの機会に、これとは別の考えでいいと思うのですが、Web上でもいいと思うのですが意見を聞いていく必要があるかと思えます。今回の議論とは関係なくなるので、御検討して頂きたい。合わせて2年ほど前につくば市在住の外国人に対し、アンケート調査をしたことがあります。もちろんこんな難しいアンケートは答えられませんので、今生活しやすいですかどうですかという質問ですが、やはり改めてアンケートを取るということではないのですが、そのデータもありますのでそういうものも合わせて市民に対する全体のアンケートの中で反映していくということも検討頂けるといいと思います。よろしくお願いします。

事務局：今回3つの市民意識調査・高校生意識調査・大学生意識調査と考えているのですが、第1回の審議会で概要だけ御説明しましたが、関係人口調査というものも今回実施する予定です。調整が間に合わずに今回の審議会で挙げられていないのですが、Web等を用いて首都圏にお住まいの方を対象とし、つくば市に対するイメージやどれくらい来たことがあるかふるさと納税等で寄付したことがあるか等、つくば市との関わり具合を伺う調査を行いたいと考えていますのでこちらについても固まり次第審議会で御報告させて頂ければと思います。

外国人を対象としたアンケートという形ですが、我々も見させて頂きまして、内容を加えていきたいと考えています。やった検討についても参考にし、この分析項目に加えていきたいと考えておりますので、後ほど拝見させて頂ければと思います。

会長：選ばれる国や選ばれる町というのがランキングなっていますので参考にしてみたいと思います。生田目さんお願いします。

委員：先ほど委員さんの方から御意見が出たのですが、今回特別支援学校の生徒さんや身体の不自由な方々にもアンケートを実施するのはとてもいい試みだと思うのですが、やはりこの内容ではちょっと難しいのではないかと考えております。つまりつくば市の未来について全く希望が持てなくなってしまうかもしれないと思いました。そこで同じアンケートを実施する必要があるのかどうか一度振り出しに戻って考えてみていいかなと思います。それは決して差別ではなく合理的な配慮ということでもあると思いますので、障害のある方などが未来に夢を持てるような内容に特化した形にしてもいいのではないかと考えてみました。あともう1つ違う話なのですが、「グローバル化がもたらす未来像」でもう少し夢がある話ということで、翻訳システムで壁がなくなるということではなく、これから内容について詰めていかれると思うのですがグローバル化の内容についてはもう少し厚く高めてもいいかなと思いました。

会長：事務局お願いします・

事務局：1点目で頂いた別にアンケートを作る、分けて伺った方がいいのではないかとこの点については再度検討を行い、技術的に分けられるかどうかという点も含め再度検討したいと思います。

2-3のグローバル化の項目をもう少し厚くという点については、最初候補で上がっていたものもありますので再度精査し、科学技術の内容が少し多いと思いますのでグローバル化についてももう少し足せればと考えています。

会長：ありがとうございます。お願いします。

委員：49ページのアンケートを取る際の高校生向けの参考資料ですが、これも非常にわかりにくいというか、もう少し夢もあっていいし2030年の社会をもう少し優しいイメージしやすい言葉で書いて頂きたいと思います。あとは、つくば未来構想の中で「つくば市を取り巻く社会情勢は厳しさを増しています」というその下に全体の項目が書いてありこういうところで課題があるのだということとは思うのですが、もう少しつくばに絞り込んだ分かりやすい内容があるといいなと思いました。

会長：事務局お願いします。

事務局：本文と合わせ御指摘を受けて精査したいと思います。

会長：その他、お願いします。

委員：市民意識調査の問4について提案させて頂きたいのですが、47ページになります。「今後力を入れるべき取組について」ということで、10年間で取り組む事項について満足度と今後の重要度について順番に聞かれていると思うのですが、答える人によっては現在の満足に対してどれくらい対処して欲しいかという対処療法的な答え方をする人もいると思うのですが、バックキャストの考え方をアンケートにも取り入れるのであれば、2030年につくばに求めるものという聞き方でダイレクトに今後の重要度を評価してもらい、満足度を省いて今後の重要度を選んでもらうという方が答え手もすっきりすると思います。

会長：事務局、いかがでしょうか。

事務局：現在満足度と重要度という2つ伺う目的としては、現在の満足度と今後の重要度がどれくらい乖離しているかというものを一つ基準にしたいと考えておりましたので、頂いた御意見も含め再度検討したいと思います。

毛塚副市長：確かに現在の満足度によって今後の重要度が影響されてしまうという傾向があり、人は大体左から書くと思うので、バックキャストという観点から今後の重要度を左に置いて、現在の満足度を右に置いた方が順番としては影響を受けにくいのかと思いました。その様な置き方はいかがでしょうか。

事務局：その様に修正させていただきます。

会長：その他、お願いします。

委員：今の意見に関連するのですが、2030年のつくば市のあるべき姿、目指すべき姿に関する回答が返ってくるかもしれませんが、意識付けは質問の中に入れてしまったらどうか。それでどういう回答が返ってくるのかというのも我々としては参考になると思うのですが、いかがでしょうか。

会長：事務局お願いします。

事務局：御質問を確認させて頂きたいのですが、具体的に記述をしてもらうということでしょうか。

委員：そうですね。

事務局：それは最後に自由意見という所もあるのですが、自由意見という形ではなく未来像についてどのようにお考えですかという設問にしてということでしょうか。

委員：設問として入れたらどうかということです。

事務局：ありがとうございます。これもスペースに余裕もありますのでそういった設問を加えられるかどうか検討したいと思います。

委員：今の御指摘は自由意見というその他全てという印象を受けるので、そうではなくわかるようにしていただきたいです。

会長：時間がきつくなってきましたので議事を進めさせて頂ければと思います。
「(4) 人口の将来推計の実施方針」について事務局から御説明をお願いします。

【議事(4) 人口の将来推計の実施方針について】

事務局：(資料8を用いて人口の将来推計の実施方針を説明。)

会長：はいありがとうございます。ごく標準的な人口推計のコーホートを使いながら開発地域については定着率と。コーホートというのはトレンドですからそれとは別なので分けてあとで合算するというのが1つポイントで、もう1つはなるべく小さい単位で推計していろんな計画で使いましょうということです。御質問御意見ございますか。

委員：最初の方に出てきました、日本と世界の未来予想の報告の時に聞きしながら思っていたのですが、やはり順番が逆だと思うのですね。こういう未来予想がありますからどう落とし込む話ではないと思うのです。まずデータが先にあり人口であるとか高齢化であるとか独居老人がどれくらいになるとか、2030年のその先の数値予想がありそこに対するイノベーションがどう活用できるかと考えるのが筋だと思います。確かに報告の中に自動運転こうしますとかIoTこうしますとか華々しくきれいだと思いますが、そうじゃなく一人一人の市民からスタートすることを考えれば、人口推計の数値を先に見せて頂きたかったと思います。物事の考え方の優先順位の話で申し上げると、市民アンケートのつくば市が未来構想を作りますから答えてくださいという話ではないと思うのですよね。一人一人の市民の立場になれば2030年あなたはどようになりたいですか。高校生でいうと、30歳前のもうそろそろ将来が固まることにはつくば市でどうしたいですかとお聞きして、それに対してつくば市はこうお手伝いできますよと。ではつくば市はどうあって欲しいですかという順番で

聞いて欲しいです。役所というとなつづく市役所からという話になるのですが、その辺のスタートラインを考えてみると質問の立て方も変わってくるのかなど。2030年の高校生に対する紹介文章が難しいというお話もありましたが、そういう聞き方もあるのではないかと思います。

会長：事務局お願いします。

事務局：1つ目に頂きました、今回は推計のやり方だけで結果がお見せできなく、両方揃わないといけないという御指摘だと思います。提示する順番についてはこのような形になっており大変申し訳ございません。次回におきましては両方揃えて御説明をしたいと思います。質問の聞き方という形で、市民の方、高校生の立場を中心に聞くべきという御指摘かと思ひます。こちらも設問について見直す中で構成や前段の説明文章について見直しを行いたいと思ひます。

会長：おっしゃるとおりだと思ひます。

委員：やっぱり従前の総合計画というのはこれだけ人口が増えるから公共投資、国からお金を取ってくるというものだったのですが、おっしゃるとおり、未来を見て逆算していくというのが今回ですので。

会長：はい、そのほかございますでしょうか。

委員：もう1点よろしいでしょうか。重ねて2回目申し訳ありません。夢のある話も大事だと思ひますが、痛みのある話はどうなのかという問題提起です。人口の話もそうですが、財政とか、公共施設がたくさんありますが、研究学園都市でいいものと一番古いものだと半世紀くらい経っていますね。そうすると一気にインフラの更新期を向かえたりします。つくばというとなつづく、そういった学園都市というのは強みでもありますが、その膨大なインフラを維持するという重い責任も負っている市だと思ひます。そういったものを2030年に向けてどうなのか。当然個々の財政であるとか公共施設の計画というのを立てておられると思うのですが、ある程度痛みを伴うかどうか見てみないとわかりませんが、そういった部分も含め最上位の未来構想で考えるべき所があればと思うのですが、そのあたりを他の委員の皆様の考え方も教えて頂きたいと思ひます。

会長：これについてはいかがですか。

毛塚副市長：やはり課題の面も未来構想の中では扱わねばと思ひております。今の御指摘の点、公共施設のマネジメントの点ですが、一応試算はございまして今後40年間で大体8,000億円という試算となっております。つくば市の一年間の財政が850億円の一般会計ですので、非常に多く負担がかかってきます。将来の課題の中でも公共施設のマネジメントというのは非常に大きな要素だと思ひております。そういった大きな課題についてはぜひ未来構想の中で盛り

込むような形で検討したいと思っております。

会長：はい、ありがとうございます。そういう方向でいいですか。御指摘の通り大事な課題だと私自身も思っております。

それでは(5)にいきたいと思えます。先ほど(3)のアンケートの所に関しては皆様から頂いた御意見を踏まえて修正するというので、あとは事務局と私に一任頂ければと思えます。完璧なものを作れる自信は全くないのですがなるべく頂いた意見を反映させながら、量も多いと思えますので、選ばせて頂きながら進めていきたいと思えます。最後(5)ですが、つくば市が今後力を入れる分野ということで、これは自由意見ですので、できれば前回御出席されなかった委員さん、また今日御発言されてない委員さんからまず御意見を頂ければと思えます。その他、お願いします。

【議事 (5) つくば市が今後力を入れるべき分野《意見交換 (前回欠席者)》】

委員：ずっと聞いていて、最後に委員さんがおっしゃった研究学園都市、これは強みでありますしこれは維持していけないといけないと考えております。やっぱりそれをアンケートの対象の若年層の人たちにつくばの財産と思ってもらうということが大事です。それには各研究所と行政が緊密なやり取りが必要だと思っております。中身が刻一刻と変わっているのだらうと思えます。これだけ色んな分野で進歩しているものをいかに住民に分かりやすく発表したり一緒に考えてもらったり、あるいは身近に使える、あるいは製品化できる。こういう所までの拡大ですかね。それはやはりつくばの自然人口を増やしていくということになるのだらうと思えます。絶対に行政としてもこれは財産と位置づけてここに集積した実績は崩してはいけないと考えているものです。

会長：ありがとうございます。

毛塚副市長：ありがとうございます。つくばに昔から住んでいる人たちが多くの犠牲を払いながら作り上げてきた財産ですので、そういったつくばの学園都市としての財産、これまでの自然環境やそれ以外の魅力も含めつくばの良い面というものをこの中にしっかり、つくばのレガシーですので引き続けていきたいと思えます。ありがとうございました。

会長：まだ発言していない方、お願いします。

委員：私も観光業に携わっているものとしてお話ししたいと思うのですが、今私たちが社員で働いている人たちの半数以上が近隣地域の方々が一日の大半をつくばで過ごす。千代田区の例もそれくらいだと思うのですが。その方々が

会社の半分以上、外国人も含めるともっと増えるという状況で、つくば市の人にだけのアンケート、台帳からということはある、先ほど近隣の市町村にもアンケートをするというお話が出たと思うのですが、向こうで住んで向こうで働いている人。しかし私たちが身の回りに接している人たちはほとんど土浦市に住み牛久に住み常総市に住んでいる人はつくばでほとんど過ごしている。この人たちの意見というのもやっぱり聞いてみたいと感じました。特につくば市の問題点、矛盾や、近隣の市町村とどう違うのか、確かにつくばだけの問題でもいっていますがそれは相対的にどうなのかと。オールジャパンともしくは茨城の近隣、そこの差も見てみたいと感じていました。

会長：ありがとうございます。大事な意見だと思えますが、どうでしょうか。今回のアンケートの限界もあるかと思えますが、多少コメントを頂ければと思います。

毛塚副市長：様々な市町村のランキングや県が行っている各市町村の住民向けのアンケートなど、このアンケートに限らず参考にできる情報は非常に多くあるかと思っております。今回作るにあたって、そういった使えるデータを積極的に使いながら検討したいと思っております。またそういった周辺自治体へのつくば市主体のアンケートについても予算の面など課題も多いと思えますが、技術的な面も含め検討させて頂きたいと思えます。ありがとうございました。

会長：委員さんお願いします。

委員：先ほど委員さんが言われたように私もその通りだと思います。私は元々つくばに生まれて育った人間でございます。一つの大きなまちの中で一つの小さい町ができるわけです。そこは一世帯で終わってしまうのです。先ほど副市長さんが言われたようにそのある程度計画を持っているといいながらも、つくば市から外れたところでは廃校もできているのです。そういうことで今ではどんどん新しい住宅ができてその人が次の代まで住めるようなつくばを考える必要があるのですね。ずっと皆が住み続けられるつくばというのは何ぞやというのを大事にしていったらどうかと思います。色々財政的な問題もあると思いますが、学校を作った古民家を作ったもうその世代で終わりだと。次はもうそこによる人がいない、そういう風な形にはなるべくなくした方がいいのではないかと思います。そういうことでお願いします。

会長：はい、ありがとうございます。副市長お願いします。

毛塚副市長：御意見ありがとうございました。つくば市では最近立地適正化計画というものを作りまして、そういったものを全国的によくコンパクトシティで中心に集めるという風に作るのですが、今回つくば市の中では先ほどまちの説明にもありましたが、中心もありながら周辺の部分に核をおきながらのまちづ

くり。そういった周辺の核がしっかりと続いていくまちづくりを意識しながら今回立地適正化計画を作っております。全国的に見ても珍しいタイプの立地適正化計画となりました。今回未来構想を作るにあたっては立地適正化計画で考えたまちの発展のあり方、また SDGs の考え方、それぞれの地域が如何に持続可能な社会になっていくのかそういった理念を盛り込みながら作らせて頂ければと思います。ありがとうございました。

委員：意見ということではないのですが、アンケートの話で2点ほどお伝えさせて頂きたいと思います。先ほど高校生や大学生のアンケートについて再度協議が必要だということですが、せつかくなので考えやアイデアを学生さんにお聞きするという中で、確かに進路であるとか居住環境であるとかありますが、せつかく子どもたちの目線という所で、例えば今現在あなたたちが楽しいと思う場所、もしくは憩いと思う場所であるとか、あとは学生さんたちの目線からつくばで残して欲しい場所とか。例えばですが、学生さんたちの観点から作って欲しい施設など、将来的な子どもたちや学生のための思いや考え方というのを反映させるためにそういったこともアンケートを取る上でそういうのもあっていいのではないかと思いました。もう1つは47ページ問4のアンケート、これは意見なのですが、例えば問3は全て最後にわからないという項目があると思うのですが、問4に対してはわからないという部分がないのでそれは1~30までの項目がある中で、当然市民の皆さんが理解できないものの中にはあると思いますので、わからないという部分も項目に付け加えて頂いた方がいいのかという2つの意見です。

会長：ありがとうございます。

毛塚副市長：わからない項目については47ページに盛り込ませて頂ければと思っています。どんな施設がとか、導入として高校生にとっては非常にアンケートを答える上でいいのかと思った所です。アンケートの分量もあるかと思うのですが、できる限り盛り込めるようなアンケートを考えていきたいと思いません。ありがとうございました。

会長：はい、ありがとうございます。時間が無いようですが、最後にどうしてもということであれば。

委員：アンケートなのですが、高校生・大学生の属性の所なのですが、色々考える年代でもあるので、男性・女性だけでなくその他や無回答という選択もできるような。特にWeb回答だと必須項目になってしまうと、特に最後に聞くことになっているので散々答えたあと、そのところで結局何だったのだろうという悲しい気持ちを味わって欲しくないというのがあるので、その辺を御配慮頂けたらなと思います。

毛塚副市長：ありがとうございます。それは対応させていただきます。

会長：アンケートに不確定は当然大事なのでおっしゃったように伝えていきたいと思えます。

飯野副市長：最後になりそうなので、立場上中身についてのコメントは差し控えさせていただきます。冒頭の職員ワーキングチームの取り組みですけれども、非常に大切なことだと思っています。若い人の想像力で色んな提案をするということもあるのですが、それ以上に計画を作るそのことに若手職員が参加するということに大きな意味を感じています。それは単に計画を作るだけではなく職員の研修の機会でもあり、いずれ自分達の仕事をする土台を作るわけですから、仕事をする上で充分この構想を理解し方向性を持って仕事をするということが大切なわけですから、そういった意味から若手職員に充分活躍して頂きながら策定をして頂きたいと考えています。

会長：ありがとうございます。副市長から総括的な御報告を頂きました。以上で時間が来ましたので審議を終了したいと思います。その他事務局からございますか。

(事務局から連絡事項等)

4 閉会

会長：それでは以上をもちまして、第2回つくば市未来構想等審議会を閉会いたします。どうもありがとうございました。

閉会（午後4時00分終了）